

<変わらないことば>

イザヤ40：6～8

「呼ばわれ」と言う者の声がある。私は、「何と呼ばわりましょう」と答えた。「すべての人は草、その栄光は、みな野の花のようだ。主のいぶきがその上に吹くと、草は枯れ、花はしぼむ。まことに、民は草だ。草は枯れ、花はしぼむ。だが、私たちの神のことばは永遠に立つ。」 イザヤ40：6～8



◆栄えていたものも、いずれは衰える日がくる。

<平家物語>

祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらわす。おごれる人も久からず、ただ春の夜の夢のごとし。たけき者も遂にはほろびぬ、ひとえに風の前の塵におなじ。

- ◆ 栄枯盛衰がこの世の法則、定めのようなものであるならば、全く変わらずにあり続けるものがあるとしたら、どんなに力強く頼りになるだろうか。それを発見し、それを頼りにできる人の生涯は幸いではないか・・・。

イエス様は世の終わりについて語られた。

いちじくの木から、たとえを学びなさい。枝が柔らかくなって、葉が出て来ると、夏の近いことがわかります。そのように、これらのことのすべてを見たら、あなたがたは、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。まことに、あなたがたに告げます。これらのことが全部起こってしまうまでは、この時代は過ぎ去りません。この天地は滅び去ります。しかし、わたしのことばは決して滅びることはありません。

マタイ24：32～35

イザヤ40章からは「慰め」のメッセージが始まる。

すべての人は草、その栄光は、みな野の花のようだ。(6節)

「すべて」とは何？

信仰によって救われた者も欠けがあり完全ではない。肉なる存在。

草は枯れ、花はしぼむ → 肉(人)なる者の現実
肉なる者の現実に神の言葉が語られ、救いが成し遂げられた → 神の現実
神が人に与えた → わたしたちの神の言葉はとこしえに立つ

わたしたちの神の言葉はとこしえに立つ 「復活」と類似
倒れてしまった人を興して立たせる
死んでしまったようものをもう一度立ち上がらせる。「raise」

- ◆神のことばは、倒れたものを起き上がらせ、復興させ続ける。
これを見つめて、これに生きるなら、あなたは決して失望することはない。

<イザヤ40章>

あなたは知らないのか。聞いていないのか。主は永遠の神、地の果てまで創造された方。疲れることなく、たゆむことなく、その英知は測り知れない。疲れた者には力を与え、精力のない者には活気をつける。若者も疲れ、たゆみ、若い男もつまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように翼をかけて上ることができる。走ってもたゆまず、歩いても疲れない。 28～31節

- ◆700年以上の時が経過した新約の時代。ペテロは手紙で同じ言葉引用。
当時、クリスチャンたちは、ローマ帝国下の厳しい迫害にあり耐え難い時代。

「人はみな草のようで、その栄えは、みな草の花のようだ。草はしおれ、花は散る。しかし、主のことばは、とこしえに変わることがない。」とあるからです。あなたがたに宣べ伝えられた福音のことばがこれです。 1ペテロの手紙1：24、25

「永遠に続く神の言葉」＝「福音として告げ知らされた言葉」

- ◆神を信じる者の希望や喜びは、永遠に続く神の言葉を信じて永遠の命にあずかること。